

午後Ⅰ試験

問1

問1はDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進状況を対象とした監査を取り上げた。全体として正答率は平均的であった。

設問1は、DX推進の制約となっている状況への対応として確認すべき内容を問うたが、正答率は低かった。DXの中でもデータを活用した分析が重要だが、本文で説明されている状況から、必要な詳細度や頻度をもったデータを取得できないことが制約となっていることを理解して解答してほしかった。

設問2、設問3及び設問5は、監査手続を問う内容であり、監査手続として、監査の対象・方法とそれによって確認する事項の二つを求めたが、その両方を明確に記述している解答は限られていた。記述すべき要件の網羅性に留意してほしい。設問2は、PoC実施の考え方を把握した上で記述することを求めているので、本文のDX-PJの活動目標の内容をよく読んで解答してほしかった。

問2

問2は、システム監査計画の策定及び見直しに際してのシステム監査人としての具体的な対応について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1は、監査対象の選定方法の見直しの内容を問うたが、本文中に記載してある選定基準をそのまま記載している解答が散見された。社長の指摘内容を参考に、戦略的に重要なシステムを監査対象に追加すべき点に気付いてほしかった。

設問3は、監査部門の教育計画について問う内容であり、正答率はおおむね高かったが、AIの技術を習得するなど、システム部門の目線での解答も散見された。監査人の育成には、AIなどの新技術を活用したシステムを評価、検証することが必要になるという点を踏まえて解答してほしかった。

設問5は、データ分析ソフトを用いた監査手続について問うたが、アクセスログを全件対象にして集計分析することができる点は解答できていたので、確認する内容まで具体的に記述してほしかった。

問3

問3は、システムの有効性を着眼点とする内部監査を通じて、ITガバナンスの適切性を評価・検証する場合のリスク、コントロール及び監査手続について出題した。全体として正答率は平均的であった。ITガバナンスに関する内部監査としてのシステム監査人の対応にポイントがあった。

設問1は、ITガバナンスにおける経営陣の関与について問うたが、正答率は低かった。経営陣への報告や情報システム戦略委員会への報告について記述した解答が少なく、評価の時期や評価基準について記述した解答が散見された。まずもって、ITガバナンスの意義についての理解を深めてもらいたい。

設問2及び設問4は、リスクに対するコントロールを問うた。正答率は平均的であったが、解答の中には、利用者へのアンケートの実施などの特定の対策や、特定の部署に限定した対策を記述した解答が散見された。状況を正しく捉え、汎用的な対策を解答してほしかった。

設問5は、監査手続を問うたが、正答率はやや低かった。監査項目だけを記述した解答が散見され、監査手続として何をどのように確認するのかを記述した解答は少なかった。状況を正しく捉え、適切な監査手続を記述してほしかった。